ソロフェスタ・ディつくば 2015

出演者：

五十嵐 滋（T）
池田 由紀子（S）
海老沢 里帆（Fl）
大木 円（Ms）
小嶋 晶子（S）
高辻 瑶子（Vn）
仲田 ちよ子（S）
箱田 美貴子（S）
梁取 美智雄（Br）
和田 知子（S）
（五十音順）

特別ゲスト：
田中 宏子（T）

日時 2015年9月13日(日) 開場13:30 開演14:00

会場　つくば市アルスホール

外部委員　半田 暁 氏(指揮者・声楽家)　見角 幾代 氏(Saal 194 主宰)
佐久間 和子 氏(合唱指揮者・声楽家)

主催　つくば音楽団体交流協議会（コンサート委員長　五十嵐 滋）

問い合せ先　堀部 一寿（コンサート委員）
電子メール　horibe3721@gmail.com　　ＦＡＸ　029-852-3721
協議会ホームページ　http://www.musicafesta.com/

主催者御あいさつ

2015年9月13日

ソロフェスタ・コンサート委員長
つくば音楽団体交流協議会前会長
茨城県南ソロ連絡会代表
筑波大学名誉教授　　五十嵐　滋

皆様こんにちは　本日は、 第三回の“ソロフェスタ”にようこそお出で下さいました。 日曜日の午後の一時、声楽と器楽のソロをお楽しみください。

この“ソロフェスタ”は、 20余年前から茨城県南地区の有力音楽団体が年一回一堂に会して行われている“ムジカフェスタ・ディつくば”を主催しているつくば音楽団体交流協議会が行って居るものです。

“ムジカフェスタ”の前身は1970年代半ばの筑波大学創設時から、 同大学の大学会館がつくば地域唯一の良好な音楽ホールだったため、 地域の芸術文化活動の推進のために、 大学が全経費を負担して開催していた“学園都市音楽会”です。 1980年代半ばになるとノバホールが出来て運営も軌道に乗ったため、 1990年代初頭に第50回を以って役割を果たしたとして終了することになったわけですが、 その際、 諸団体のメンバーとして“学園都市音楽会”に出演するだけでなく、 実施について会館を助けていた筑波大学の教員・学生 OBの有志を中心にして、 地域で音楽活動を始めて居られた堀部一壽さん等の音楽家の協力を得て発展的に継承されたのが“ムジカフェスタ”です。

“学園都市音楽会”には、 こうした経緯から当然のこととして地域の音楽専門家（いわゆるプロ）とアマチュア団体や愛好家が分け隔てなく混じっており、器楽、合唱、ソロの3部門に分かれて年3回開催されていました。つまり創設以来の理念として、 プロ、 アマや団体と個人や演奏ジャンルの垣根を超えた地域住民の音楽芸術の発表の場だったわけです。“ムジカフェスタ”が、 県南から更に一部県外都市の団体までも加えて、 この理念を承継し更に発展させたものであることはご存知のとおりです。

更に、この“ソロフェスタ”の実現と成功に至るまでには、2010年に結成された茨城県南ソロ連絡会の方々の努力も有りましたが、 それについてはホームページ等で別の機会に御紹介します。

今日は、 プログラムをご覧になれば分かるように、 ゲスト・シンガーの田中宏子さんを筆頭に、 これまでに劣らず皆様に誇れる出演者を揃えることが出来ました。 またストレッチを兼ねて、 皆様と一緒に歌うプログラムも入れてありますから、 この秋の午後をごゆるりとご堪能くださいますように。

～プログラム～

第１部

1．　五十嵐 滋（テノール）　横山 美恵（ピアノ）

歌劇「トスカ」～カヴァラドッシのアリア「星も光りぬ」　作曲 プッチーニ
Tosca　～　E lucevan le stelle　Giacomo Puccini

妖精の瞳　作曲 デンツァ
Occhi di fata　Luigi Denza

2．　箱田 美貴子（ソプラノ）　山本 光（ピアノ）

小さな空　作詞＆作曲 武満 徹

歌劇「カルメン」～ハバネラ　作曲 ビゼー
Carmen　～　Habanera　Georges Bizet

3．　仲田 ちよ子（ソプラノ）　水村 香代子（ピアノ）

落葉松　作詞 野上 彰　作曲 小林 秀雄

喜歌劇「メリー・ウィドゥ」～ヴィリアの歌　作曲 レハール
Die lustige Witwe　～　Vilja-Lied　Franz Lehár

4．　梁取 美智雄（バリトン）　門脇 郁香里（ピアノ）

あざみの歌　作詞 横井 弘　作曲 八洲 秀章

マロニエの木蔭　作詞 坂口 淳　作曲 細川 潤一

モルダウ　作曲 ベドルジハ スメタナ　作詞 平井 多美子　編曲 桜田 直子

5．　高辻瑶子（ヴァイオリン）

無伴奏ヴァイオリンソナタ第３番　作曲 イザイ
Sonata for solo violin No.3　E.Ysaÿe

6．　田中 宏子（ソプラノ）　恒岡 朋代（ピアノ）

初恋　作詞 石川 啄木　作曲 越谷 達之助

霧と話した　作詞 鎌田 忠良　作曲 中田 喜直

～ 休 憩 ～

7．　海老澤 里帆（フルート）　月岡 優（ピアノ）

序奏とロンド　作曲 クーラウ
Introduction et Rondo　F.Kuhlau

8．　和田 知子（ソプラノ）　桑原 香織（ピアノ）

歌劇「椿姫」～「乾杯の歌」　作詞：フランチェスコ・マリア・ピアーヴェ　作曲 ジュゼッペ・ヴェルディ
《La Traviata》～ Brindisi　Francesco Maria Piave－Giuseppe Verdi

歌劇「ドン・ジョヴァンニ」～ツェルリーナのアリア「ぶってよマゼット」
作詞 ロレンツォ・ダ・ポンテ　作曲 モーツァルト
《Don Giovanni》～ Batti,batti,o bel Masetto：Arie der Zerline　Lorenzo Da Ponte－W.A.Mozart

歌劇「ジャンニ・スキッキ」～ラウレッタのアリア「私のお父さん」
作詞 ジョアッキーノ・フォルツァーノ　作曲 ジャコモ・プッチーニ
《Gianni Schicchi.》～ O mio babbino carao：Aria di Lauretta　Giovacchino Forzano－Giacomo Pucccini

ミュージカル「マイ・フェア・レディ」～踊り明かそう　作詞 ラーナー　作曲 フレデリック・ロウ
《My Fair Lady》～ I Could Have Danced All Night　Alan Jay Lerner－Frederick Loewe

9.　大木 円（メゾ・ソプラノ）　山口 瑞穂（ピアノ）

歌劇「ラ・ジョコンダ」～ 女の声、それとも天使の声でしょうか　作曲 ポンキエッリ
La Gioconda　～　Voce di donna o d'angelo　Amilcare Ponchielli

歌劇「仮面舞踏会」～地獄の王よ　作曲 ヴェルディ
Un Ballo in Maschera　～　Re dell'abisso, affrettati　Giuseppe Verdi

10.　池田由紀子（ソプラノ）　中山 ちあき（ピアノ）

抒情小曲集より 小曲　詩 萩原 朔太郎　作曲 三善 晃

歌劇「ラ・ボエーム」第1幕～私の名はミミ　作曲 プッチーニ
La boheme　～　Mi chiamano Mimi　Giacomo Puccini

歌劇「コジ・ファン・トゥッテ」～フィオルディリージの叙唱とアリア　岩のように動かず　作曲 モーツァルト
Cosi fan tutte　～　Come scoglio immoto resta　W.A.Mozart

11.　小嶋 晶子（ソプラノ）　山口 瑞穂（ピアノ）

赤とんぼ　作詞 三木 露風　作曲 山田 耕筰

歌劇「ラ・ボエーム」第4幕～ミミのアリア　告別の夜　作曲 プッチーニ
La boheme　～　Donde lieta　Giacomo Puccini

12.　田中 宏子（ソプラノ）　恒岡 朋代（ピアノ）

喜歌劇「メリー・ウイドゥ」～ハンナ登場シーン　作曲 F. レハール
Die lustige Witwe　～　Bitte, meine Herr'n　Franz Lehár

喜歌劇「こうもり」～アデーレのアリア　侯爵様、貴方様のようなお方は　作曲 J. シュトラウスⅡ
Die Fledermaus　～　Mein Herr Marquis　Johann Strauss II

歌劇「椿姫」～ヴィオレッタのアリア　そはかの人か～花から花へ　作曲 ヴェルディ
La Traviata　～　È strano! ～ Ah, fors'è lui ～ Sempre libera　Giuseppe Verdi

13.　会場の皆さんもご一緒に♫

喜歌劇「メリー・ウィドゥ」～とざした唇に（メリー・ウィドウ・ワルツ）　作曲 レハール
Die lustige Witwe　～　Lippen schweigen（Merry widow waltz）　Franz Lehár

出演者プロフィール

五十嵐 滋（いがらし しげる）

声楽を竹前ケイ、横山和彦両氏に、アコーディオンを渡辺弘氏に師事。音楽理論を東京藝大旧通信課程で学ぶ。横浜博つくば市デーで「忘れな草」を歌う。近代詩曲の会主宰（合唱団“銀の笛”は10年間ノバホールで定期演奏会を成功させた）。つくばではルネッサンス専門の“もくせい会”と男声合唱団“KOΣMOΣ”（ともに創立メンバー）でも長年歌う。つくば市文化祭音楽会の役員を多年努め、堀部一壽氏と協力して現行の二日開催を実現させた他、つくば市カピオ・ホール設計市民ワーク主査、つくば音楽団体交流協議会の会則起草（その後会長も）、筑波大学・市民交流音楽会を同大学会館で開催する等、つくば市と近隣地域の音楽活動の交流発展に努める。筑波大学名誉教授、世界WHO'S WHO 殿堂メンバー、合衆国文化協議会平和賞受賞。著書『演奏を科学する』（ヤマハ・ミュージック・メディア社刊）、音楽情報学の国際的論文多数。

箱田 美貴子（はこだ みきこ）

ゆりの会（土浦市の声楽の会）所属。以前は、落合祐子先生の合唱団に所属していた。

仲田 ちよ子（なかだ ちよこ）

中学校より数十年間、合唱で歌い続けている。オペラ「小町百年の恋」では、3回合唱で参加した。現在、土浦市民合唱団、つくばフィルハーモニー合唱団所属。土浦市出身、在住。

梁取 美智雄（やなどり みちお）

中学高時代はコーラス部員で県大会に出場、日立製作所中央研究所時代はコーラス部員で産業音楽祭に参加し優秀賞。30 歳頃より音楽から遠ざかり定年を迎えた。その後、産総研に省エネの支援指導で入所したのを機に、産総研音楽倶楽部に入部し、ムジカフェスタに参加した。7年前から声楽独唱を南みつ子先生に師事、水戸市の県民文化センターで新春声楽コンサートに6回ほど出場、つくば市民音楽祭に独唱部門でノバホールに一回出場しました。声楽のほかクラシックギターを愛好し、最近はビラロボスの「前奏曲」などの練習をしています。

高辻 瑶子（たかつじ ようこ）

茨城県つくば市出身。4 歳からヴァイオリンを始める。 第 16 回日本演奏家コンクール入選。 2014 年ゆうばりミュージックセミナーにて水野佐知香氏、 オレグ・クリサ氏、 2015 年モーツァルテウム夏期国際音楽アカデミーにてライナー・シュミット氏のマスタークラスを受講。 2014 年に桐朋女子高等学校音楽科 (男女共学) を卒業し、 現在桐朋学園大学音楽学部二年在学中。 これまでに吉野薫氏、 現在久保田巧氏に師事。 室内楽をヴァイオリンとヴィオラで藤原浜雄、 音川健二、 徳永二男、 鷹羽弘晃、 鈴木良昭の各氏に師事。

海老澤　里帆（えびさわ りほ）

東邦音楽大学音楽学部音楽学科フルート専攻卒業。 フルートを門馬曜子、 岩間丈正氏に師事。 在学中にウィーンへ行き H. シュマイサー氏に師事。 ウインズ・ユーで講師をする傍ら演奏活動をしている。 茨城笛の会、 フルートアンサンブルシリンクス、 東邦音楽大学フルートオーケストラベル・ソナ所属。

和田 知子（わだ ともこ）

母がクラッシック音楽好きであったことから、 幼少の頃よりクラッシック音楽に親しむ。 高校時代にそれまで師事していたピアノ教師より声楽の手ほどきを受け音大への進学を勧められたが、 同じ芸術でもデザイン、 建築へと進路を取り、一時音楽から離れた。 社会へ出ても音楽への情熱は冷めることなく、 声楽の個人レッスンで音楽を再開。 2006 年には筑西市誕生記念オペラ「こうもり」でアデーレ役を演じ好評を博す。 さらに 2007 年には明野ミュージカル「ハロー、ドーリー」でマロイ役を演じ高い評価を得た。 品のある舞台姿によく響き透き通る歌声で、 イタリア、 フランスのオペラアリア等を中心に歌っている。

大木 円（おおき まどか）

武蔵野音楽大学声楽科卒業。 第 29 回茨城県新人演奏会、 国際芸術連盟新人推薦コンサート出演。 第4回東京声楽コンクールアリア部門入賞。 第 18 回茨城県名手名歌手たち出演。 世界クラシック 2010 金賞。 平成 21 年度茨城県芸術祭県民コンサート特賞。
水戸の街に響け！ 300 人の〈第九〉、 モーツァルト『レクイエム』等のアルトソロを務める。
大峰陽子、 安居史恵子、 茂垣裕子の各氏に師事。

池田 由紀子（いけだ ゆきこ）

茨城県芸術祭県民コンサートに 2005 年、 2007 年出演、 2010 年には特賞受賞、 2011 年には賛助出演。 2009 年には国際芸術連盟主催、第 6 回東京声楽コンクールにて3位入賞。 同年8月 、同連盟主催コンサート「エクセレントステージ in Tokyo」（けやきホール）に出演。 星洋二、 濱田千枝子、 堀部一寿、 各氏に師事。

小嶋 晶子（おじま あきこ）

茨城県那珂市出身。 聖徳大学人文学部音楽文化学科声楽コース卒業。 声楽の基礎から堀部一寿氏、 鈴木義弘氏、菅波ひろみ氏、 に師事。 平成 18 年度県民コンサート出演。 現在、 茨城県民オペラ協会演奏部員、 ローゼの会会員、守谷市文化協会音楽部会に所属。 平成 23 年度石岡公演、 オペラ「小町百年の恋」(平井秀明作曲) にてお松 / 侍女1役でオペラデビュー。 施設訪問演奏、 学校訪問演奏、 サロンコンサート、 また歌唱指導も行っている。

ゲスト紹介

田中 宏子（たなか ひろこ）

国立音楽大学声楽科卒業。 二期会オペラスタジオ研究所３３期修了。
渡辺恒子、（故）伊藤宣行、 村上絢子の各氏に師事。 日本オペレッタ協会「ふれっしゅコンサート」出演。「ヘンゼルとグレーテル」グレーテル、「コジ・ファン・トゥッテ」フィオルデリージ、「イル・トロヴァトーレ」レオノーラ、「ラ・ボエーム」ミミ、「蝶々夫人」蝶々さん、「椿姫」ヴィオレッタ、「こうもり」ロザリンデ、「シモン・ヴォッカネグラ」アメーリア、「夕鶴」つう、「ルクセンブルク伯爵」アンジェール役で出演。
今年 12 月 23 日つくばオペラ第 3 回公演「メリー・ウィドゥ」ハンナで出演予定。
２０１１年“つくばオペラ”を立ち上げる。
二期会準会員。 つくばオペラ代表。 つくばオペラフィオーレ会員。

楽曲紹介　※文責　演奏者本人

「星も光りぬ」・・・テノールの定番の一つで、 歌劇「トスカ」 の物語と、 このアリアが歌われる場面は、 皆様よく御存じだと思います。

「妖精の瞳」・・・作曲者のデンツァは「フニクリ・フニクラ」 で有名なイタリー人で、 ロンドン王立音楽アカデミーの声楽教授だった。「貴女の瞳の美しさで、私の心の安らぎは失われた。 私の青春の情熱とこの花を受け取ってください。 そして貴女の愛をください。」

「小さな空」･･･武満徹さんが30代半ばの時に作った作品。 武満徹さんは詩人を目指したこともあったらしく、エッセイには「本物の詩人には勝てません」 と書いている。

「ハバネラ」･･･半音階で下降するメロディーは、 恋の気まぐれを歌った歌詞と調和する。 第 1 幕でヒロインであるカルメンが歌う。

「落葉松」･･･1972年に作曲された深く心に訴えるこの作品は、 合唱曲としても広く愛されている。

「ヴィリアの歌」･･･「メリー・ウィドゥ」 2幕の最初の方で歌われる曲で、 ハンナの豪邸で繰り広げられる宴の場面でトランペットのファンファーレのあとに歌われる華やかで叙情的な場面。

「あざみの歌」･･･昭和 24 年のラジオ歌謡です。 終戦まもなく、 作曲家の横井弘氏が 18 歳の頃、 長野県の八島高原に行き見つけたのが、 あざみの花で、 この花に、 ひたむきな思いを寄せて、 この詩が誕生したとのことです。 7 月には、「あざみの花」、 8 月には「ユリの花」 が咲きます。 今年龍ヶ崎のある駐車場の垣根の下で、 2 つの花がきれいに咲いているのを見かけました。

「マロニエの木蔭」･･･昭和 12 年頃、 学校の先生からプロ歌手に転職した、 松島詩子さんが歌い、 ヒットした歌です。 この頃の歌謡曲は， クラシック歌謡と言われていますが、 作曲家はクラシックのメロディーの 1 部を歌謡曲に応用していくという風潮がありました。 この曲の成功点は、 詩をタンゴのメロディーにのせて作曲したことと， 前奏部分に力を入れて作り上げたことだと思います。

「モルダウ」･･･チエコの国民的な作曲家スメタナの代表曲で、 6曲からなる交響詩『わが祖国』 の第2楽章がモルダウです。 モルダウ（ヴルタヴァ）川は、 ボヘミアを 南から北に流れ、 エルベ川に合流するチェコの重要な河川の一つ。 私は昭和62年に、 チェコのプラハで国際学会が開催されたので参加し、 プラハ城とモルダウ川を見てきました。 モルダウ川は静かに流れ、 遊覧船が浮かんでいましたが、 町並みが実に古風で静かで、 日本の昭和の始め頃のような情景でした。 しっとり、 わびしく落着いていたのが印象的でしたが、 人間はこのような中にいると、 自分を取戻し、 互いに譲り合い、 争いは起こらないようにも思いました。

「無伴奏ヴァイオリンソナタ第 3 番」･･･ヴァイオリンは、 人の声に近い楽器と言われています。 たしかに、 低い音は男性、 高い音は女性の歌声のように聴こえることがあります。
　この曲は、 ベルギー人の作者が 1920 年代に作曲した曲で、 これは有名な J.S. バッハの時代から 300 年近くも経った時代です。 比較的新しめのこの曲、 一見耳馴染みの無い音型の羅列のようにも聞こえますが、 よく耳を傾けるとどうでしょう。 彼もまたヴァイオリニストであった作者がヴァイオリンの特性をよく生かして作っているため、 歌と重なる豊かな音色の魅力、 そしてヴァイオリンならではの技巧的な魅力、 どちらもお楽しみいただけるのではないかと思います。

「初恋」･･･石川啄木の第1歌集『一握の砂』（明治 43 年） 中の1首に曲をつけたもの。 4 分の 5 拍子、 4 分の 4 拍子、4 分の 3 拍子、4 分の 5 拍子とめまぐるしく拍子の変わるのが特徴で、それが独特のノスタルジックでみずみずしい印象を与えています。

「霧と話した」･･･1960 年に発表された中田喜直の代表的な歌曲です。 過去の失われた恋に対する女性の悲しみを繊細なタッチで描かれています。

「序奏とロンド」･･･クーラウはドイツ生まれデンマーク育ちの作曲家、 ピアノソナチネを沢山作曲しているが、 フルートで有名な曲はこれと4つの四重奏曲がある。 この曲の前半は舞台の前説みたいなものでフルートのアドリブが決め所と言っても過言ではない。しかし後半は前半とは違ってゆったりとしたテンポで始まり、 まるで誘っているかと思わせるホ短調の旋律が第一主題である。 途中で平行調（ト長調→ホ短調）に転調する。 ホ短調の旋律が女性的とすればト長調は男性的であり、 答えを見せるが第一主題でまた誘いかける。 最終的に同主調（ホ長調）でお互いの気持ちが重なり合い、 明るく終幕する。

「乾杯の歌」･･･オペラ「椿姫」の冒頭で歌われる大変有名な曲です。 毎夜繰り広げられるパーティで、 主人公のヴィオレッタとアルフレートが出会う場面で歌われます。 アルフレートがグラスを片手に歌い始め、ヴィオレッタが加わり、 一同も加わって華やかに歌います。 今回の発表では合唱無しのショートカットでヴィオレッタの部分を歌います。

「ぶってよマゼット」･･･「ドン・ジョヴァンニ」はスペインの伝説の放蕩者「ドン・ファン」をもとに描かれたオペラ。 稀代の女たらしドン・ジョヴァンニは次々に女たちを誘惑します。ドン・ジョヴァンニに誘惑されかけた村娘のツェルリーナが、 やきもちを焼いて怒った恋人マゼットをなだめるために「ぶってよ、 マゼット、 子羊のように待ってるわ。 夜も昼も楽しく、 人生を一緒に過ごしましょうよ」と歌います。

「私のお父さん」･･･オペラよりも、 この単独のアリアがとても有名な曲です。 富豪の遺産を手に入れることに乗り気でない父親ジャンニ･スキッキに、 娘のラウレッタが「愛するお父様、お願い、 私は大好きなあの方と、ポルタ・ロッサに行って指輪を買いたいの。 もしだめなら、ヴェッキオ橋からアルノ川に身を投げてしまうから。 苦しいわ、 ああ神様、 死にたいわ、 お父様、 お願いよ、 お父様、 お願いよ！」と懇願して歌います。

「踊り明かそう」･･･ミュージカルでも映画でも人気のある「マイ・フェア・レディ」の中で歌われる、 これもまた大変有名な曲です。 主人公のイライザが訛りを克服し、 ついに上流階級の話し方をマスターし、 大喜びする場面で歌われます。

「女の声、 それとも天使の声でしょうか」･･･宗教裁判所のスパイ、 バルナバによって、 魔女に仕立て上げられてしまったジョコンダの盲目の母チエカ。 そこに宗教裁判所長官と共に現れた妻のラウラのおかげでチエカは助かり、 アリア～女の声、 それとも天使の声でしょうか～を歌い、 感謝の気持ちを込めて手にしていたロザリオをラウラに渡す。

「地獄の王よ」･･･総督リッカルドと部下レナートの妻アメーリアの許されぬ恋の末、 リッカルドがレナートに殺されてしまう悲劇のオペラ。 その中で、 リッカルドの死を予言する占い師ウルリカが歌うアリア。

「抒情小曲集より　小曲」･･･すて身に思うふわが身こそ　　びいどろつくりとなりてまし　　うすき女の移り香も　　けさの野分けに吹きちりて　　水はすずしく流れたり　　薄荷に似たるうす涙

「私の名はミミ」･･･寒い冬の日、 屋根裏部屋のロドルフォの部屋に、 一人の女性が明かりの火をもらいに訪ねてくる、 そして一目で引かれあった二人が自己紹介し合う、 恋の始まりを予感させるアリア

「岩のように動かず」･･･1790 年初演のモーツァルトのオペラ。 姉妹のフィオルディリージとドラベッラにはそれぞれ婚約者がいる。 ある日、 婚約者達は姉妹の貞節を賭けで証明しなければならなくなり、 アルバニア人に化けて各々逆の恋人に執拗に言い寄るが、 フィオルディリージは Temerari, sortite fuori di questo loco!　無分別な人達！ここから出ていってください！と激しく詰ってから、 恋人に 対する自分の気持ちは揺るがないと、 高らかに表明する。

「赤とんぼ」･･･1927 年（昭和 2 年）の作品。 三木露風（1889 ～ 1964）が少年時代を過ごした故郷龍野（兵庫県）で姐や（子守）との深く心に刻まれた思い出をうたったもの。

「告別の夜」･･･プッチーニの代表作の 1 つ「ラ・ボエーム」。 フランス語で「ボヘミア人のように放浪的な生活をする人」を意味する。 正にパリに住む貧しい芸術家たちの友人を物語る作品である。 主人公のミミという女性は胸を患っていた。 ミミの恋人ロドルフォは貧しい芸術家のため、 彼女を救ってやれない不甲斐なさに悩み苦しんでいた。 ミミはその苦しみを知り彼との別れを決意する。 なんとも限りなく哀愁を込めて歌う名場面である。

「メリー・ウイドゥ～ハンナ登場シーン」･･･第１幕、 莫大な遺産を相続した未亡人ハンナ・グラヴァリが、 大勢のパリの男たちに囲まれて登場する。

「貴方様のようなお方は」･･･仮面舞踏会でフランスのルナール公爵と名乗る銀行家アイゼンシュタインに、 女優のオルガが紹介されますが、 アイゼンシュタインは彼女があまりにも自分の家の小間使いのアデーレに似ていると口走り、 失礼を咎められてしまいます。 調子に乗ったアデーレは、 こんなに手のきれいでかわいい小間使いがいるかしら、 その小間使いに夢中なのかしらと笑い飛ばします。

「そはかの人か～花から花へ」･･･第 1 幕のフィナーレ、 真実の恋に目覚めたヴィオレッタは自問自答の気持ちのアリアを歌います。「ああ，　そは彼の人か (Ah,fors'e lui) ～花から花へ (Sempre libera)」という2つの部分からなる「カヴァティーナ・カバレッタ」形式のアリアは，　このオペラの最大の聞きところの一つです。

みんなで歌おうコーナー 歌詞

♪ とざした唇に ♬（メリー・ウィドウ・ワルツ）

訳詞：堀内 敬三

高なる調べにいつか　心のなやみもとけて
言わねど知る恋心　想う人こそ君よと

調べにつれ　ときめく胸　この思いを　告げよと波打つ
口はとじても　心にはかよう　愛の甘き　ささやき

言わねど知る恋心　想う人こそ君よと

～ソロフェスタ・ディつくば　参加のご案内～

「ソロフェスタ・ディつくば」にあなたも出演してみませんか？
つくば市、およびその近郊地域において活動されている声楽、器楽の方で、ソロで演奏する場を求めていらっしゃる方は、ぜひ次回以降の公演にご出演ください。
詳しくは、ソロフェスタ事務局（ｈｏｒｉｂｅ３７２１＠ｇｍａｉｌ．ｃｏｍ）までお問い合わせください。